

八尾 みんなで映画の街に

フィルムコミッション設立 俳優・青木崇高さん協力

八尾市が地元出身の俳優・青木崇高さん(41)と協力し、映画をからめたにぎわいの創出や、市民の郷土愛の醸成に向け、動き出している。映画やテレビの撮影を誘致するほか、市民にエキストラなどのボランティアを募集する「八尾市フィルムコミッション(FCC)」を設立。2025年の大阪・関西万博に向けた観光客誘致も視野に入れており、市民総参加で「映画のまち・やお」をPRしたい考えだ。(南恭士)

きっかけは、19年春に就任した大松桂右市長に届いた一本の電話。「なんでもっと活用してもらえないん



トークセッションで熱意を語った青木さん(右、八尾市)

ロケ誘致 ■ 市民参加、魅力発信

港、山手の自然、河内音頭などの文化、心合寺山古墳などの歴史遺産、外国人を含む多文化のコミュニケーション。東京を拠点に活動しながら八尾の魅力を再認識していたが、市からの依頼が少ないことに違和感を抱いていた。

19年末に市内の飲食店で大松市長と4時間、地元への熱い思いを語り合った。その後、地域活性化のツールとして「映画のまち・やお」作りに取り組むことになった。

青木さんの紹介で、ロケ地として名高い北九州市のFCC事務局長などを務めた日々谷健司さんに八尾市の観光都市創造アドバイザーを務めてもらうなどFCC設立に向けて加速。今年度、市観光・文化財課内に事務局を設置してスタートを切った。

まずはショートムービーの制作から始め、映画のロケ地誘致や、25年の万博に向けた映画撮影を目指す

いう。市民に郷土愛を持ってもらえる仕組み作りや、八尾に足を運んでもらえるような魅力発信が目標という。大松市長は「行政だけが旗を振っても、尻すばみする。市民、企業、八尾のすべての人を巻き込みながら進めたい」と話す。

昨年10月には市内で大松市長、青木さんらによるトークセッションを開き、「映画のまち・やお」の始動をアピール。終了後の取材で、青木さんは「ようやく動き出した」と充実した表情を浮かべた。撮影で様々な地方を回ることで地元の魅力を再認識したといい、「八尾にはいろいろなコンテンツが詰まっており、それをつないでいけば、魅力的な街になる。大阪の人に『八尾市が面白い』と言わせれば、すごいことだと思っ」と力を込めた。

形になるまで10年、20年を要することも想定される。「僕も参加するけど、最終的には八尾の人たちでアイデアを出しながら、自立して作品を作ってもらえるのが理想。そこまでは関わりたい、その後も見守りたい」